
あの日

長月 タ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日

【Nコード】

N0782A

【作者名】

長月 夕子

【あらすじ】

半世紀前の記憶をたどる。その影は私の足元にも届いている。殺しもしたし殺されもした。私の手もまた汚れている。

空を見ると何かがきらりと光った。と思うと電車は急ブレーキをかけた。立っていた彼女は体を吹っ飛ばされそうになった。

「降りろー！降りろー！」

兵隊が怒鳴り声を上げる。

「これは狙われている――！降ろろ――！降ろろ――！」

電車のドアは開かれ、次々に乗客は降りていく。彼女が降りようとした時、ホームのない電車の高さに足がすくんだ。身長は150センチに満たない小柄な彼女は、さらに高所恐怖症であつた。躊躇っていると、「降りろというのが解らんのか！死にたいのか！」と、兵隊に怒鳴られながら引きずり降ろされた。ほとんど落つことされるように電車から降りた彼女は、降りるときに足をぶつけたらしい。足をつくと痛みが体を駆け巡つた。しかし、痛みを気にとられている場合ではない。電車からは逃げ出す人たちが四方八方に走り去っていく。彼女も走り出した。突然目の前に戦闘機が姿をあらわす。彼女の小さな心臓は飛び出しそうになつた。その戦闘機の操縦者と、一瞬目があつたような気がした。

[illegible]

すさまじい音が激しく彼女の鼓膜を打つ。弾は運良く彼女をよけた。後ろから叫び声がして彼女は走りながら振り向いた。電車の反対側に逃げた人たちが、次々に倒れていく。おぶつた赤ん坊ごと殺された親子が目に入った。それはさつきまで彼女の目の前に座っていた親子であつた。

思わず目をつむる。つぶつた瞬間、勢いあまってすつ転んだ。靴が脱げる。彼女は靴を胸にかき抱いてそれでも走り続ける。走ってるのか転んでるのかわからなくなりながらも、まだ逃げる逃げる逃げ

る。爆音が小さな彼女の体をなぶる。弾は当たらない。遠くに大きな柿木が倒れているのが目に入る。小さな彼女は木の下にもぐりこんだ。両手で耳をふさぐ。ふと気が付くと木がかすかに震えている。木の中を見渡すと男が一人大きな体を小さく抱えて、彼女と同じ木の下にいる。男が震えているのだ。カタカタとみつともないほど歯を鳴らし

「内地は怖い。内地は怖い。戦地にいたほうが良かった。怖い怖い。」

念仏のようにつぶやいていた。

どれほど時間がたつたろうか。どれほど逃げつづけたのであろうか。彼女はやっと自分の家にたどり着いた。彼女の家は奇跡的に難を逃れた。

家の中では末の妹が金たらいをかぶってまだ震えていた。彼女は思わず声をたてて笑った。何に対して笑ったのか、彼女にもわからなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0782a/>

あの日

2011年1月4日14時05分発行